

郡 美矢

どんなことで あつても諦めない。 その姿勢が私の 人生を拓いてきた



ろう者の牧師であり
国際手話通訳者

郡さんは、ご自身もろう者で、日本では数少ない国際手話通訳者として世界各国を飛び回っておられるそうですね。私は生まれながら、日本では数少ない国際手話通訳者として世界各国を飛び回っておられるそうですね。

郡はい、そうなのですが、私の正式な本職は牧師なんですよ。現在は広島県の三滝グリーンチャペルの牧師をしていまして、日曜日の礼拝や毎週木曜日の婦人集会その他、毎週木曜日の『聖書』研究会についてお話ししたいたい。

あと月に二回は大阪で主婦向けに『聖書』を教えてます。この九月には、私も理事を務めるろう者のクリスチャンの世界会議がオーストラリアで開かれますので、一週間ほど現地に行く予定です。

それで、十一月にはアジア太平洋手話翻訳協会の理事会でフィリピンへ行きますが、そこでは国際手話通訳者としての仕事をします。

平成十八年に、国連大会において手話は言語である」と認定されま

ろう者の牧師として障がいを持つ人々の苦悩に向き合いながら、国際手話通訳者として世界を舞台に活動している郡美矢さん。生まれつき耳が聞こえないというハンディにも決して負けることなく、自らの人生を力強く切り拓いてこられた郡さんには、その半生と心の拠り所となってきた両親の言葉や『聖書』の教えについてお話ししたいたい。

昭和45年徳島県生まれ。高校卒業後、カナダで歯科技工士として勤務。その後米国に留学し、ろう教育と神学を専攻、牧師として世界各国で奉仕活動を経験。平成18年日本に帰国後は、兵庫県の但馬神愛キリスト教会、広島県の三滝グリーンチャペルに勤めています。公用手話である国際手話はあります、同じ英語圏でもアメリカとオーストラリアは手話が全く違います。私は国際手話の他、四か国語の手話を習得しました。

郡さんは、日本の手話と、海外の手話は共通ではないんですね。

郡 公用手話である国際手話はあります、同じ英語圏でもアメリカとオーストラリアは手話が全く違います。私は国際手話の他、四

か国語の手話を習得しました。

郡さんは、国際手話通訳ができる方は日本にどれくらいいらっしゃるのですか。

郡 ろう者で国際手話通訳ができる

るのは、国内でも十人いるかないかだと思います。毎日とても忙しいですね(笑)。

何事もろうを理由に 諦めてはいけない

——郡さんは、いつ頃から耳が聞こえなくなつたのでしょうか。

郡 私は生まれた時から聞こえませんでしたので、「聞こえる、聞こえない」ということを意識することなく育ちました。私は生まれつきろうの父、病気が原因でどうになつた母の間に生まれた三人兄妹の末っ子ですが、四歳上の兄は耳が聞こえ(聴者)、一歳上の兄はろう者です。つまり、長兄以外は皆ろう者の家庭に育つたんですね。なので、家庭の中では幼い頃から手話でのコミュニケーションが当たり前でした。ただ、当時の学校では、口の形を読み取る訓練や发声の練習を重視する口話教育が中心で、先生は手話を全く使わなかったので、家では手話、学校では口話という環境でした。

——聞こえないことで辛いと思つたことはありませんでしたか。

郡 聞こえないから辛いというよりも、周囲から「聞こえないから

ればだめ、あれは無理」って言われるのが悔しかったですね。本當は皆と同じようにできるのに、どうしてだらうという思いがあります。

郡 ただ、私の両親は「聞こえないからできない」ではなく、「聞こえなくてできる」ということをたくさん教えてくれたんです。例えば、学校に連絡しなければいけないことがあっても、両親は耳が聞こえる長男を頼るということは絶対せず、自分で学校まで訪ねて行くなどして用件を伝えていました。努力してできることは全部自分でやる。そういう姿を見て育つことが、「自立して生きよう」という、私のいまの姿勢に繋がっているのだと思いますね。

——自立して生きる。

郡 ええ。母の口癖は「私にできることがあなたにできないはずがない」でした。勉強も九十点以上でないと納得しません。両親は理容店を営んでいましたが、母は仕事から帰ると、私の宿題やテストの成績をチェックします。一度理科で七十点を取った時に、「なぜこんな点を取るの?」っていつも

強をして百点を取ったんです。周囲の人が「しようがない」「いやよ、いいよ」って言ってくれることでも、母だけは「皆同じ一人ひとりの人間。ろう者だからといつてできないことは本当に少ない。不自由なかわいそうな子ではない」と、私が厳しく接しました。

——お母様の愛情を感じます。

郡 実はそこまで厳しくしたのは理由があったんです。母は八歳でろうになりましたが、父親は医師で、母親は看護師でした。そのため、母も医師を目指して一心に勉強に打ち込んだのですが、とうとう夢は叶いませんでした。当時の法律には「欠格条項」というのがあって、ろう者が医師になる道は閉ざされていました。

私はその夢を押しつけるといつたことはありませんでしたが、とにかく母が一貫して私に言い続けたことは、「何事もろうを理由に諦めるな」ということでしたね。

前例がないなら、 その前例に自分がなれ

——郡さんは、中学・高校と、ろう学校ではなく、普通学校に通わされたとお聞きしています。

私はろう学校で使っていた教科書を見てこう言つたんです。「小学四年生なのに、どうして三年生の教科書を使っているの?」と。先にも少し触れましたが、当時のろう学校の授業は手話ではなく、口の動きを読む読話・口話が中心で、先生が黒板に書いたもの生徒が書き写す方式でした。卒業後は聴者の社会で働くのだから、ろう者も声を発して話せるようにならなければいけない、手話ではなくて、口の動きから会話が読み取れなければならないという発想がベースにあつたんですね。

ただ、これだと先生が黒板に書いている間にタイムロスが生まれるので、授業の進行は遅れてしまうんです。それだと先生が黒板に書いたことが遅れるのが当たり前でした。

——それで普通の学校に移りたいと考えるようになつたと。

郡 ええ。うすうす感じはしていましたが、兄に言われて改めて、「これはおかしい。自分も皆と一緒に勉強がしたい」と思つたんです。それで、「聴者の学校に行きたい」と母に言つたら、母は私の気持ちをすぐ理解してくれました。

特集 人生の要訣

Association of the Deaf)は、ろう者とは「発達した視覚を持つ人々である」と定義しています。実際ろう者は目の前にある動きや形状を認知し、記憶する、空間認識能力が聴者より優れているという調査結果があるんです。

カナダに行き、そのことに目が開かれたことで、私はろう者の人たちが「聞こえないことは不幸ではない、個性なんだ」と誇りを持って生きていけるよう、ろう教育に携わりたいと思うようになったんですね。それでろう教育と神学

——神学を学ばれたのに、何か
きつかけがあつたのですか。

郡 実は私の両親がクリスチャ
ンとして、私も幼い頃から食事をす
る前にお祈りするとか、一緒に教
会に行くなどして、『聖書』の物語
には親しんでいたんです。

——子供の頃から親しまれていた
のですね。これまでの人生の歩み
や、『聖書』から学ばれた人生の要
訣を教えていただけますか。

郡 体の栄養と同じで『聖書』に
は自分を生かす言葉や物語が多く
あります。例えば『聖書』にこう
いう話があります。自分の目の前

を学ぶたゞ、骨髄うがいを辞めてアメリカの大学に入りました。
牧師の資格を取り、大学を卒業した後は、シカゴのろう教会で牧師の仕事や黒人文化地区でボランティア活動を経験しました。その中で、もつと深く英語の読み書きや英語での手話などを学ぶことの必要性を痛感して、再び大学院に入り、勉強を続けました。そして二〇〇六年、三十六歳の時に日本に戻ってきたんです。

郡 そうなんです。初対面で私の
素質を見抜いてくださって。それ
で、「自分はできる、できる、でき
る」と、男子に交じって必死に練

でも、もう学校の先生は「前例がない」と反対でした。あなたはまで行って交渉してくれました。声を出すのも上手じゃないし、無理だって。先生に何度も相談しても反対されるので、母は教育委員会は六年生の時に普通の公立小学校へ転校することができました。その時に、「インテグレート（ろう者）が通常学級で聴者と一緒に学ぶこと」して挫折しても、こちらではどうにもできませんよ」と言ったた部自分で責任を持ちます」と。それを横で聞いていた私は、母が責任を持つということは、同時に私も責任を持つことなのだと幼いながらに理解しました。どんな世界にも前例をつくる人が必ずいます。だから、前例がないから諦めるのではなく、その前例に自分がなれと、母はもう学校の先生の前で教えてくれたんですね。そのためには努力を惜しまない、そして自分で責任を負いなさいと。

う学校の時には、勉強でもスポーツでも一番だったのが、やはり普通学校に来るとはいきませんでした。とりわけ、スポーツだけは絶対に負けない自信があったのですが、頑張っていた陸上競技の高跳びで県大会に出場したもの。一番にはなれなかつたんですね。それで、ちょうど高校に進学する前に、ロサンゼルスオリンピックで優勝した柔道の山下泰裕さんにインタビューする女子柔道家の山口香さんの映像を見まして、「女子にも柔道があるんだ」と、高校では柔道をしようと思いました。ところが、担任の先生に入部届を提出したら、「女子柔道部はありません」と。結局、顧問の先生は、満面の笑みで、大きな声でこう言つてくださつたのです。「大丈夫。お前ならできる。俺と一緒に全国大会に行こう!」

習を積み、本当に一年後に県大会にも出場することができました。どんな人にとっても、「あなたはできる」という言葉は最強のエネルギーになります。一所懸命な人にはたとえ何の根拠がなかつたとしても、そのエールで背中を押してあげてほしいと思いますね。

嫌だという思いもあって、海外で働こうと考えたんです。

でも先生は最初全然相手にしてくれなかつたんですね。だから一人でやるしかない、休日を利用して、各国の大使館を「ろう者で」も働けますか」とアポなしで回りました。来客の多いアメリカ以外の大使館職員はすべて丁寧に説明し、対応してくれました。

そうしたら、その行動に驚いた先生が、「よっぽど、外国に行きたいいんだな」と、カナダにいる知人に問い合わせてくれたんです。その後、私は国家試験に合格し、卒業式前日に、カナダの歯科ラボに就職できることになりました。

——熱意が伝わったんですね。カナダでの生活はどうでしたか。

日本では「親もろう者なの、大変ね」と同情の目で見られることが多かったのですが、カナダでは全く逆。初対面なのに、「あなたの親はもう者なの?」って聞いてきて、そりだよって答えると、

同じように、目の前に悲しんでいる人がいたら、笑いを提供して元気にしてあげる。じめられている子がいたら、自分一人でも手を差し伸べてあげる。この物語はまず自分が行動することの大しさを私たちに教えてくれています。それから教会にいらっしゃる方には、自分中心の生活ではなくて、自分も神様に愛されているのだから、隣の人もまた同じように愛しなさい。周りを思いやる気持ち、感謝を大切にしてほしいといふお話をよくしていますね。

——思いやりと感謝。

に心機喪失を避えた黄金の麦が広がっています。ところが、いざ刈り入れようと思つても、誰も一緒に刈り入れてくれる人はいません。あなたならどうされますか？

——自分でやります。

郡 そうです。もし自分が刈らなければ、それはひとつままであります。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます」（ヨハネ十二・二十四）という言葉があります。種が地に落ち、そのままだと芽は出できませんが、それが碎ければそこから芽が出て、多くの実をつけることができます。

「そんなこと無理だ、無理だ、無寄って来始めるんですね。

習を積み、本当に一年後に県大会にも出場することができました。

どんな人にとっても、「あなたはできる」という言葉は最強のエールになります。一所懸命な人には、たとえ何の根拠がなかったとしても、そのエールで背中を押してあげてほしいと思いますね。

耳が聞こえないのは 天から与えられた個性

——その後は、どのように人生を歩んでいかれましたか。

郡 将来なりたいことはたくさんありました。高校時代は薬剤師に絞って勉強していました。

ところが、二年生の時、ろう者は当時の法律では薬剤師になれないと次に考えたのがソーシャルワーカーでしたが、学校の先生は手に職を持つ仕事をと、歯科技工士になることを勧めてくれました。

資格を取るために筑波大学附属学校の歯科技工科に通ったのですが、もともと私は海外に行きたかったという夢がありました。それに人と同じような人生で終わるのは嫌だという思いもあって、海外で働こうと考えたんです。

でも先生は最初全然相手にしてくれなかつたんですね。だから一人でやるしかない、休日を利用して、各国の大使館を「ろう者で働けますか」とアポなしで回りました。来客の多いアメリカ以外の大使館職員はすべて丁寧に説明し、対応してくれました。

そうしたら、その行動に驚いた先生が、「よっぽど、外国に行きたいいんだな」と、カナダにいる知人に問い合わせてくれたんです。その後、私は国家試験に合格し、卒業式前日に、カナダの歯科ラボに就職できることになりました。

——熱意が伝わったんですね。カナダでの生活はどうでしたか。

郡 日本では「親もろう者なの、大変ね」って同情の目で見られることが多かつたのですが、カナダでは全く逆。初対面なのに、「あなたの親はろう者なの?」って聞いてきて、そうだよって答えると、「やっぱり! あなたの手話ははっきりしているし、しっかりしているわ。羨ましい。私の親は聴者、聞こえるの」って嫌そうな顔をしても私を見るんです。日本だったら